

東日本大震災から6年、いまだ届かぬ声がここに――

ドキュメンタリー映画 [ライフ]

生きてゆく

ただ会いたくて
風吹く浜で、きょうも――

「忘れないで欲しいっていう気持ちは、ないんですよ。
風化するのしょうがないことだと思ってる。
でも忘れる前に、福島で起こったことは、まだ知られていない。
福島の本当の現実を、ただわかって貰えたらって思っています。」

上野敬幸さん(「Life」主人公／福島県南相馬市萱浜 在住)

出演／上野敬幸、上野貴保、上野倅吏生、木村紀夫 監督・撮影・編集／笠井千晶(Rain field Production)
音楽／Steve Pottinger 題字／優和恵 イメージ画／小原風子 企画／想い願うプロジェクト



©2017 Rain field Production 制作／Rain field Production

2017年 115分 16:9 カラー 日本

ドキュメンタリー映画「Life」公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/life.fukushima.tsunami/>
問い合わせ

【Eメール】 omoi.negau@gmail.com 【電話】 080-9117-7118

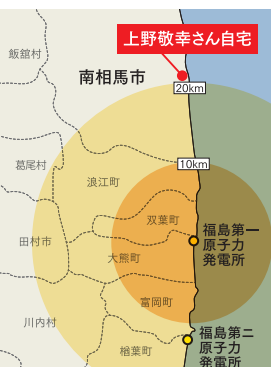
これは、遺された 「一軒の家」をめぐる ある家族の “命”の物語。



2011年3月11日午後3時40分

**福島県沿岸に押し寄せた津波、
そして原発事故—。
見捨てられた命が、そこにはあった。**

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた福島県南相馬市萱浜(かいば)地区。消防団員の上野敬幸さんは両親と子ども2人を津波で流され、必死に捜索を続けていた。その最中、福島第一原発が爆発した。



**「本当に助けて欲しいって
思った時には、
来なかったねえ、誰も—。」**

捜索のため避難を拒んだ上野さん。その目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された故郷・萱浜に、唯一、遺った我が家だった。この「一軒の家」とともに、物語は紡がれていく—。

「天国のみんなに安心して欲しい。」—すべてが流された萱浜で再起を誓う上野さんは、一面に菜の花の種をまいた。一方、震災後に生まれた娘と妻の3人になった家族には、それぞれの想いが交錯する。そこにはいつも亡くなった4人の存在があった。

**「生きているから出来ること。
生きているからこそ、
やらなきゃいけないことがある。」**

やがて、第一原発が立地する大熊町で、同じく行方不明の我が子を探す木村紀夫さんに出会う。“復興”の波に抗い続けた上野さん。避け続けてきた現実を前に、ついに苦渋の決断を下す。そして5年9ヶ月後、訪れた奇跡の瞬間とは—。



映画「Life」からのメッセージ

撮影開始から5年半をかけて完成したこの映画は、津波と原発事故がもたらした福島の“知られざる悲しみ”を伝えます。ゆっくりと乗り越えるように歩み、前を向く上野さん一家。その姿は、私たちに問いかけます。家族とは何か—、そして、生きることは—。



監督 笠井千晶 かさい ちあき

京都でふくしまの“今”を感じる上映会

2017年11月28日(火)

映画「Life 生きてゆく」上映後は、主人公の上野敬幸さんと監督の笠井千晶さんをお招きして対談を開催！ 映画を通して、ふくしまの“今”を感じてみませんか？

時間 開場…17:30 開演…18:00
トーク開始…20:20 終了…21:00

入場無料 (要申込み)
対象/高校生・大学生・大学院生

■場所:立命館大学 朱雀キャンパス1階 多目的室
■主催:そよ風届け隊 ■共催:立命館災害復興支援室
■お問い合わせ先:
そよ風届け隊 代表 吉村 大樹(立命館大 法学部 2回生)
Eメール/soyokaze.huu.2013@gmail.com
☎075-813-8282(窓口:立命館災害復興支援室) [申し込みフォーム▶](#)

